

25番	長江 秀幸 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
1. 小中学校における問題行動・不登校対策について 【質問趣旨】 2024年度に全国の小中学校で不登校だった児童生徒は35万3,970人(前年度34万6,482人)で、過去最多を更新したことが10月29日、文部科学省の「問題行動・不登校調査」で明らかになった。小中学生の不登校は12年連続の増加。高校生は6万7,782人で、小中高を合わせると42万1,752人に上った。いじめ認知件数は、小中高と特別支援学校を合わせて76万9,022件で、4年連続で過去最多を更新。76.1%が2024年度末までに解決していた。	(1) 令和7年度瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書のいのちを大切にする教育の推進について (2) いじめや問題行動への対応の充実について	① 目指す姿として、「自己肯定感や他人を思いやる心、いのちを尊重する心、規範意識が育まれている。」としているが、具体的にどのように取り組んでいるのか伺う。 ② 道徳教育推進教師を中心に各校で指導体制を整え、道徳科の授業が改善されてきたとしているが、改善内容と児童生徒の反応を伺う。 ③ 道徳科の授業の充実は大変重要だと考える。しかし、道徳科の授業のみの取組では児童生徒の心の成長もおぼつかないと思う。いのちを尊重する心は、学校・家庭・地域の連携、また、普段の生活の中で身についてくことだと考えるが、学校としてどのように取り組んでいるのか伺う。 ① 本市におけるいじめの認知件数については、小中学校全校で、令和4年度444件、令和5年度465件、令和6年度463件となっている。この現状をどのように分析しているのか伺う。 ② いじめは、どの学校でも、どの子どもにも起こり得るものとして、対処療法ではなく、学校、保護者、地域、関係機関と連携を図りながら、いじめを許さない環境づくりと未然防止に努めるため、「瀬戸市いじめ防止基本方針」を策定し、徹底を図り、取り組んでいるが、その成果と課題について伺う。 ③ いじめの早期発見の取組について具体的に伺う。 ④ インターネット上のいじめに関する対策については、どのように対応しているのか伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

25 番	長江 秀幸 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
心身に重大な被害を受けた疑いがある「いじめ重大事態」も1, 405件と最も多かった。小中高での暴力行為発生件数は過去最多の12万8, 859件。また、自殺した小中高の児童生徒数は413人で、置かれていた状況(複数回答可)は不明(234人)を除くと精神障害(58人)家庭不和(46人)進路問題(35人)などが多く、いじめ問題は8人だった。本市も「いのちを大切にする教育の推進」「いじめや問題行動への対応の充実」「不登校児童生徒への対応の充実」などを第2次瀬戸市教育アクションプランの基本施策として取り組んでいるが、その取組について伺う。	(3) 不登校児童生徒への対応の充実について	⑤ 「いじめをしない、させない、見逃さない」社会の実現を目指すため、あらゆる機会を通じての広報・啓発活動が重要となるが、どのように取り組んでいるのか伺う。 ① 本市の小中学校における1, 000人あたりの不登校児童生徒の数について、小学校では、令和4年度21.0人、令和5年度25.1人、令和6年度27.0人。中学校では、令和4年度68.0人、令和5年度79.4人、令和6年度77.0人となっている。この現状をどのように分析しているのか伺う。 ② 不登校児童生徒数の増加に歯止めがかかっていない現状があり、特に小学生の増加が目立っている。すぐに小学校にも“ここ”ほっとルームを設置するというわけにはいかないかもしれないが、現状と今後の取組について伺う。 ③ 教職員も日常の業務で大変多忙である。そこで、ノウハウを持つ教職員のOBなどに協力してもらい、対応してはと考えるがいかがか。 ④ 新たな不登校を生まない対策が重要である。すべての児童生徒が登校したいと思える魅力ある学校を目指した取組と、初期対応として児童生徒の課題に対する専門的な知見を踏まえ、不登校になりそうな児童生徒を念頭に置いて行う取組の両輪が重要とされている(国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センター見解)が、本市はどのように取り組んでいるのか伺う。 ⑤ 現状把握と今後の対策を検討するため、不登校のきっかけ、背景、学習機会や支援のありかたに関する実態調査をしているが、その分析と今後の取組について伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

25 番	長江 秀幸 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
		⑥ 様々な理由で学校に通えない不登校の児童生徒に学びの場を提供するため、千葉県は現在、小学校4年から中学校3年生を対象に、オンライン授業配信「エデュオプちば」を実施している。オンライン授業やオンデマンド配信を視聴した日数を各市町村の教育委員会に報告し、各学校長が承認すれば出席扱いになる。県の取組ではあるが大変参考になる事例である。本市のオンライン授業に関する見解と、今後の取組について伺う。 ⑦ 教育長は、令和7年度瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書の総評の中で、「タブレットの更新時期を迎え、学習面はもちろん、児童生徒の心のケアも含めこれまで以上に活用を図っていきます。居場所づくり事業として全中学校に設置しました“ここ”ほっとルームでは、多くの児童生徒のサポートが行われています。今後もその機能がより充実するよう取り組んでいきます。」と述べられているが、心のケア、“ここ”ほっとルームなど不登校児童生徒への対応の充実について方針と決意を改めて伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

25 番	長江 秀幸 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
2. クマ被害対策について 【質問趣旨】 クマによる人身被害が相次ぎ、今年度の犠牲者は全国で12人(10月30日時点)に達した。過去最悪だった2023年度の2倍となり、極めて深刻である。被害は北日本で目立ち、クマの出没が多い地域では住民の不安が高まっているため、地域の安全を守る体制を構築せねばならない。政府は今後、警察によるライフル銃を使用した駆除や、狩猟免許を持つ自治体職員「ガバメントハンター」の確保などを進める方針だ。9月には改正鳥獣保護管理法が施行され、自治体の判断で市街地での「緊急銃猟」が可能となったが、駆除を引き受ける民間の猟友会では会員の高	(1) 人の生活圏への出没防止について (2) 出没時の緊急対応について (3) クマ類の個体管理の強化について (4) 人材育成・確保について	① 人の生活圏への出没防止には、追い払い、放任果樹(柿など)等の誘引物の管理、緩衝帯の整備、電気柵の設置、また、クマ類の移動ルートとなる河川の生息環境管理が重要と考えるが、見解を伺う。 ① 出没対応マニュアルの作成、出没対応訓練等の取組が重要と考えるが、どのように取り組んでいくのか伺う。 ② 出没情報の収集・提供が重要である。広報・ホームページだけでなく、スマートフォン向けアプリなどの運用により市民に情報提供をする取組が有効と考えるが、見解を伺う。 ③ 9月に改正鳥獣保護管理法が施行され、自治体の判断で「緊急銃猟」が可能となったが、同制度の認識について伺う。 ④ 出没時の安全確保が重要であるが、警察、猟友会との連携はどのような体制になるのか伺う。 ① クマ類の個体数、生息分布、被害状況等の調査・モニタリング、また、人の生活圏でのクマ類の個体数管理も必要になってくると考えるが、見解を伺う。 ① 本市の猟友会の現行の人数については、瀬戸猟友会43名、品野猟友会43名で合計86名となっている。また、本市の事業である狩猟免許補助金申請者数は、令和4年度6名、令和5年度7名、令和6年度7名である。猟友会員については微増、若い女性が増加傾向、会員ではあるが活動していない人もいると伺うが、専門的な人材、捕獲技術者の育成・確保が急務と考えるが現状と今後の取組について伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

25 番	長江 秀幸 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
担い手不足は全国的な課題だ。さらに、クマに襲われる危険性や被害が増えている現状を鑑みれば、猟友会頼みの状況は脱却する必要がある。一方、緊急銃猟の際は、近隣住民の安全を確保する必要がある、実施可能な場面が限られることが想定されるため、そもそも市街地に出没させない対策が必要だ。餌となる生ごみを屋外に放置しないことや、農地に電気柵を張るなど、クマを人の生活圏に寄せ付けない環境整備を進めたい。住民に対する自治体からの情報も大切だ。近年、愛知県内においてもツキノワグマの目撃情報があり、市民も不安を抱いている。そこで、本市のクマ被害対策についての認識、考え方、取組について伺う。	(5) 被害対策について	② クマによる人身傷害が深刻化する中、政府は11月14日、クマ被害対策パッケージを改定した。狩猟免許を持つ人を公務員として任用する「ガバメントハンター」の確保支援が盛り込まれた。本市には狩猟免許をもつ職員はいないと伺うが、ガバメントハンターについての認識と今後の方針について伺う。 ③ ハンターの任務は危険と隣り合わせである。市長から駆除の委託を受けたハンターが負傷した際、公務災害など公務員と同等の補償が受けられるような処遇改善も今後必要であると考えているが、見解を伺う。 ① 国主導の対策になるかもしれないが、捕獲に使う箱わななどの安定供給、個体数増加と人身被害が相次いでいる原因の分析・研究も早急の課題だと考えるが、見解を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。